

かっ とっ ぽ

2018
1月2月

平成30年2月1日号 毎月発行No.149

目次

P1～2・・・2018年新年のご挨拶

P3～4・・・平成30年4月から入院医療費の計算方法が変わります

P5・・・発熱外来設置のお知らせ

P6・・・特診外来予定表

P7・・・あとがき



1/11 雪景色の上五島病院



長崎県上五島病院 <http://www.kamigoto-hospital.jp/>

〒857-4404 長崎県南松浦郡新上五島町青方郷 1549 番地 11

T E L 0959-52-3000 F A X 0959-52-2981

2018年新年のご挨拶

上五島病院 院長 八坂 貴宏



あけましておめでとうございます。皆様、穏やかな新年をお迎えのことと存じます。今年も宜しく願い申し上げます。

昨年、上五島病院は、医療機能の充実に努めた1年でした。2016年5月より開始した心臓カテーテル治療は本格導入の1年となり、多くの狭心症や心筋梗塞の患者さんの治療を行いました。また、外科や整形外科の内視鏡手術も増加し、負担の少ない専門医療も充実してきました。5階病棟は、療養型病床でしたが、36床を地域包括ケア病床(退院前の管理やリハビリを行う)に、14床を医療療養型病床(ゆくり療養して在宅に繋げる)として運営しました。認知症対策は、物忘れ外来を開設し、また当院が認知症疾患医療センターに認定され、新上五島町在宅医療介護連携支援センターや新上五島町包括支援センターとも連携しながら、地域の認知症患者のケアに努めました。訪問看護ステーションは過去最高の訪問件数となり、在宅看取りも着実に増加しています。

さて、医師、看護師、介護士確保は、地域の人口減少、人材減少で困難な状況にありますが、本土からの派遣や福利厚生充実で、新規人材の確保、離職防止に取り組んでいま

す。しかし、救急患者搬送の増加や合併症のある高齢患者さんの入院も多く、診療を行うスタッフには大変負担がかかっていることも事実です。安全対策、接遇への取り組みも続けていますが、待ち時間対策や部門サービスなどは、皆様のご理解をいただきながら運営しております。

医師については、4月合同会社ゲネプロとの共同によるRural Generalist Program Japan(上五島地域で1年間の地域医療研修を行い、その後オーストラリアで3か月間研修を行うプログラム)を始動、4名の専門研修医師の勤務が始まりました。看護師は、奨学金制度やアイランドナースネットワーク事業(長崎医療センターからの看護師派遣事業)、ジャパンハート・パートナーシップ(ミャンマーやカンボジアで医療支援を行っている医療団体からの看護師派遣事業)など、様々な取り組みを行っています。介護士の確保は喫緊の課題です。この職種の人材不足は深刻で、介護保健施設でも定数割れの状態にあり、地域の皆様のご協力を是非お願いしたいと思っております。

2018年度は、これからの高齢社会の進展を見据えて、様々な改革元年になると思っています。国は、地域医療構想、地域医療計画の策定を進め、診療報酬・介護報酬の同時改定が行われます。地域医療構想では、地域に必要な病床数、病床機能、医療連携をどうするか検討がなされ、地域医療計画では、今後6年間の医療計画(主に5疾病:がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患と5事業:救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療+在宅医療)の策定がなされています。



上五島地域は長崎県内でも先駆けて病院・診療所の機能分担や病床機能が整備済みで、現在上五島病院のみの病床が継続され、一般急性期132床、回復期としての地域包括ケア病床40床、慢性期としての療養型病床10床、感染病床4床の計186床を維持していく予定です。また、病院と附属診療所ならびに町立診療所の連携は、これまで通り継続していきます。上五島に多いがん疾患に関しては検診の受診率向上がさらに必要でしょうし、ますます増加する糖尿病や認知症対策も課題となると考えています。

診療報酬改定では、①地域包括ケアシステムの構築と医療機能の分化・強化、②新しいニーズに対応でき、安心・安全で納得のできる質の高い医療の実現・充実、③医療従事者の負担軽減、④効率化・適正化を通じた制度の安定性・持続可能性の向上といった基本的考えのもと、医師の技術料や人件費にあたる本体部分は+0.55%、薬価-1.65%、材料価格-0.09%の予定と報道されています。技術料がアップし、在宅医療や遠隔医療の展開に手厚い報酬となることが予測されます。上五島地域は高齢者の多い離島で、これらの医療形態は益々充実していくべきであり、積極的に取り組んでいきたいと考えています。また、2017年まで、上五島病院の入院費用は、行われた医療行為の経費が積み重なる出来高診療料で計算されていましたが、2018年からはDPC病院（Diagnosis：診断 Processor：診療行為 Combination：組み合わせ）として、診断名に基づいた包括診療料に移行します。DPCでは病名によって1日当たりの診療費が決められており、これに日数を掛け算することで入院医療費が算定されます。（一部、手術などは出来高算定となります。）患者さん方にはこれまで通りのお支払いでいいのですが、医療の標準化、適正化、質の向上を目指すための変更であるので、外来での検査、入院日数の調整等、ご協力をお願いすることもあるかと存じます。

また、2018年度から新専門医研修制度が始まります。2年の初期臨床研修が終了した医師は原則、19の診療科（これまでの内科、外科、小児科など18診療科に総合診療科が加わった）から専門研修を選択し、3～5年かけて専門医のライセンスを取得することになります。当院でも総合診療専門研修プログラムを基幹施設として運営し、また長崎大学病院などと協力しながら他の専門医の育成を行うこととなります。こちらもご理解、ご協力をお願いしたいと思います。

私は、院長就任12年目を迎えますが、院長就任時の三つの目標、①思いやりの医療、②安全・安心の医療、③職員の意識向上・スキルアップには、スタッフ一同で取り組み続けています。また、現在継続中の5年間の行動目標は、①医療の質の向上・効率化、②地域包括ケアシステムの構築、③地域保健医療から雇用の創出、町づくりを挙げており、更なる保健医療の充実に努めて参ります。

2020年には、東京オリンピックも開催されますし、これからの2-3年間は激しい変化の時期になります。800万人と言われる団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）になる2025年も間もなくです。これからも住みやすい町維持のために、その下支えとしての地域の保健医療体制の充実に努めていく所存ですので、地域の皆様方のご協力を宜しく願致します。

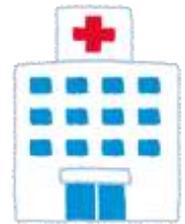
（2018年1月）



平成30年4月から 入院医療費の計算方法が変わります!!

■入院医療費はDPC(診断群分類別包括評価)によって計算されます

当院では、平成30年4月1日から入院費を「診断群分類別包括評価(以下、DPC)」によって計算する新しい方法に変更いたします。平成29年4月現在、長崎県内でもすでに28病院がDPC対象病院となっており、全国でも1,664病院が対象病院となっています。



■DPC(診断群分類別包括評価)とは



DPCとは「Diagnosis: 診断、Procedure: 診療行為、Combination: 組み合わせ」の略で、入院される患者さんの病状などをもとに病名や治療内容に応じて定められた1日当たりの点数を基準に、医療費を計算する新しい方式です。

従来は、投薬・注射・検査などの診療行為を合計して計算する「出来高算定」方式でしたが、DPCでは1日当たりの定額の点数が決められており、投薬・注射・検査などの診療行為はその決められた点数に包括されています。

ただし、手術・麻酔など医師の専門的な技術を必要とする分野は従来の出来高算定方式で医療費を計算します。

(DPCによる入院医療費の計算方法については、次のページをご覧ください。)

■DPCによる入院医療費の支払いについて

入院医療費の総額は、これまでの「出来高方式」と比べて高くなる場合や安くなる場合があります。また、入院日数によっても1日当たりの定額点数が変わる仕組みになっています。

DPCでは入院される病名や治療内容、入院日数によって医療費が変わりますので、以前と同じ病名で入院されても、以前の医療費と単純に比較できない場合があります。ご了承ください。

なお、自己負担割合や高額医療の取り扱いは従来と変わりありません。ご不明な点がございましたら、医事係(1階事務所)までお問い合わせ下さい。



■入院日数等に関して

DPCでは入院日数によって1日当たりの定額点数が変わる仕組みになっているため、入院日数を確認しながら診療を行うこととなります。しかし、上五島地域は県内で最も高齢化が進む町であり、合併症を持つ患者さんも少なくありません。したがって、状況によっては入院期間が長引く場合もあり、ご家族とも相談の上、診療に当たりたいと考えています。

DPC算定ではない、地域包括ケア病床や医療療養型病床もありますので、ご利用頂きたいと存じます。



■DPCによる入院医療費の計算方法

従来の計算方式
(出来高方式)

入院基本料

投薬・注射
(退院時処方を除く)

検査・処置
(一部を除く)

画像診断
(一部を除く)

包括に変更



H30年4月からの包括評価
(DPC方式)

1日当たりの定額医療費

×

入院日数

基本的に投薬・注射・検査
などは1日当たりの定額医
療費に含まれます。

手術・麻酔・輸血

リハビリテーション

退院時処方

出来高のまま



手術・麻酔・輸血
リハビリテーション
一部の処方
一部の検査
退院時処方

食事療養費

そのまま

食事療養費

入院医療費 = 1日当たりの定額医療費 × 入院日数 × 医療機関別係数(※) + 出来高評価部分
※医療機関別係数とは、各医療機関の機能に応じて医療機関ごとに定められている一定の係数です。

発熱外来設置のお知らせ

上五島病院では今年もインフルエンザ対策として発熱外来を設置しています。
発熱のある方は下記手順で発熱外来の受診をお願いいたします。

— 受診の手順 —

- ① お電話で受付を行います。
上五島病院52-3000にお電話ください。

電話受付の際に問診も行います。
症状や状況について、担当職員の質問にお答えください。



- ② 検査可能な時間に予約を行います。
(発熱から18時間以上経過後を目安にしています。)

※呼吸苦が強いなど重症感のある場合は、その限りではありません。
ただし、発熱の高低は重症度には関係ありません。

- ③ ご予約の時間にご来院ください。

(1)ご予約が平日の場合

ご予約の時間に発熱外来駐車場にお越しください。
到着されましたら52-3000にお電話ください。駐車場に番号を付けていますので、「駐車場〇番に到着した」とお伝えください。
担当の職員がお車までご案内に向かいますので、職員が来るまではお車から出ないようにお願いします。

(2)ご予約が土日祝祭日の場合

ご予約の時間にご来院ください。
到着されましたら夜間出入口からお入りください。守衛室に守衛がおりますので、「発熱外来受診に来た」とお伝えください。守衛が場所を案内します。

【受診の際に気をつけること】

- 来院時は必ずマスクを着用してきてください。
- 来院前に体温測定をしてきてください。
- 状況により予約時間どおりに受診できず、お待たせする場合があります。ご了承ください。



- ★原則として、平日の9:00~11:00、14:00~16:30の受診となります。
- ★土日祝祭日は時間を限定して発熱外来を設置します。平日とは時間帯も場所も異なりますので、ご注意ください。
- ★時間外の受診につきましては、急を要しないと判断した場合は翌日受診をお願いする場合があります。
- ★検査のタイミングは担当医師が判断いたします。ご了承ください。
- ★受診のタイミングは発熱から18時間経過後を目安としております。
- ★検査が陰性であってもインフルエンザと診断することもあります。(検査は目安です。)



平成30年2月の特診外来予定

	泌尿器科	耳鼻科	神経内科	循環器科	皮膚科	眼科
2月1日(木)	計屋先生 午前、午後					山田先生 午前・午後
2月3日(金)	計屋先生 午前、午後(~16時)					山田先生 午前
2月5日(月)		原先生 午前、午後				
2月6日(火)		原先生 午前				松永先生 午前・午後
2月7日(水)					原先生 午前	松永先生 午前
2月8日(木)	志田先生 午前、午後					宮城先生 午前・午後
2月9日(金)	志田先生 午前、午後(~16時)					宮城先生 午前
2月12日(月)						
2月13日(火)		吉見先生 午前	森先生 午前、午後	江口先生・土居先生 午前		前川先生 午前・午後
2月14日(水)					鎌塚先生 午前	前川先生 午前
2月15日(木)	松尾先生 午前、午後					山田先生 午前・午後
2月16日(金)	松尾先生 午前、午後(~16時)					山田先生 午前
2月19日(月)		渡邊先生 午前、午後	調先生 午前、午後			
2月20日(火)		渡邊先生 午前				松永先生 午前・午後
2月21日(水)					竹中先生 午前	松永先生 午前
2月22日(木)	相良先生 午前、午後					宮城先生 午前・午後
2月23日(金)	相良先生 午前、午後(~16時)					宮城先生 午前
2月26日(月)		原先生 午前、午後				
2月27日(火)		原先生 午前		土居先生 午前		前川先生 午前・午後
2月28日(水)					富村先生 午前	前川先生 午前

※赤字の診察は予約・紹介予約の患者さんのみです。

※船の欠航等により、予定は変更となる場合があります。ご了承ください。

※診療開始時刻は医師来院時の交通機関の都合により、9:00~10:00頃の間で変動します。ご了承ください。

マンガ

タ-坊

原作：ウゼ



— あとがき —

最近、全国的にも厳しい寒さが続いていますね。寒さのせい、体調を崩している人も多いのではないのでしょうか。

体が冷えると新陳代謝や免疫力が低下し、疲れも取れにくくなり、病気にかかりやすくなってしまいます。体を温めるためには、体の外からばかりではなく内側からも温めてあげることが重要です。そこで、今回は体の中に取り入れる日々の食事に注目したいと思います。

食べ物には体を温めるものと冷やすものがあります。野菜では冬が旬の物や、地中で育つ根菜類が温める効果があると言われています。こういった野菜には、血行を良くするビタミンEや、血管の機能を良くするビタミンCが多く含まれているためです。反対に体を冷やす野菜には、夏が旬の物や地上で育つ物が当てはまります。ただし、温める野菜のみ食べるわけにはいかないの、これらの野菜はできるだけ生で食べるのは避け、加熱調理をすると良いそうです。

これを踏まえて、おすすめしたいのが鍋料理です。この冬すでに何度も食べたという人は多いでしょう。ご存知のとおり、鍋は野菜を多く摂れるだけでなく、他の食材の栄養素もバランスよく摂ることができます。準備や後片付けも比較的手軽で、体だけでなく室内も温めることができます。さらに食材や味付け、薬味で様々なバリエーションが楽しめるのも飽きない魅力の一つです。

このように、たくさんのメリットのある鍋料理。家族や友人とわいわい囲むのも楽しいですし、最近流行りの一人鍋も良いですね。是非、今日の晩ごはんにいかがでしょうか。

(広報委員 M.A)



○基本理念

地域と共に歩み、
信頼され親しまれる病院

○5つの行動目標

- ①信頼と満足の得られる医療の提供
- ②地域の基幹病院としての診療機能の充実
- ③地域における保健・医療・福祉の連携
- ④IT化によるさらなる医療の効率化
- ⑤地域における疫学研究と医療従事者の教育・研究の推進



◆ご意見、ご感想を下記までお寄せください。

長崎県上五島病院
857-4404
長崎県南松浦郡新上五島町青方郷1549-11

電話 0959-52-3000
FAX 0959-52-2981
Email kamihp@gold.ocn.ne.jp
URL <http://www.kamigoto-hospital.jp>